

					2020年度 PRISM実施	BLCJ予算で 2020年度実施	2021年度 以降実施	外部委託 が必要か	主担当:原案作成 (担当) :意見だし等
	テーマ		具体的な作業単位	報告概要					
[目標・ロードマップ等]									
	2.BLCJの目標、ロードマップ等のイ								
			標準化に加え、他の活動も入れたロードマップ作成	ロードマップ	○				事務局（在り方部会）
[研究・開発]									
	1.属性情報の標準化								
	a.								
	建築BIM推進会議のワーク	a1	標準ワークフロー・データフローに見合った属性の利活用の検討・整理		○				建築部会
	フロー・データフローに整合した	a2	インボタの実践的な活用の流れを整理		○				建築部会
	BLCJの対応範囲の検討・整理	a3	営繕の実証試験も想定して具体的な実施項目の整理		○				建築部会
	(仕様連携システムの構想と	a4	設計のデータ入力フロー、ユーザー視点での属性情報と積算や仕様書のつなぎ方の整理		○				建築部会
	利用イメージの取りまとめ)	a5	建築仕様連携システムの利用イメージを検討→ユースケース		○				連携部会
		a6	スペースオブジェクトの活用を検討				○		建築部会
			ワークフローのシミュレーション(実例による確認)を行い、形状・属性情報の過不足を検討する。(主に施設管理情報の追加)		○				設備部会
		b1	中分類まで整理された属性情報を個別機器まで拡張						
		b2	→例：EHP/GHP等		X	○			設備部会
	b.								
	ワークフローに整合した実用的な形状・属性情報標準の見直し整備。	b3	設計段階でのジェネリックobj/メーカーobj、施工段階でのジェネリックobj/メーカーobjでの推奨する入力範囲の確定→設備CADソフトでの対応＋情報のみ授受の4本立てが必要か		X	○			設備部会
		b4	電気設備（強電系）は配線器具等不足分を追加		X	○	○		設備部会
			電気設備（弱電系）は未着手。						
		b5	空調設備も不足分を追加整備。実証プロジェクトで必要なオブジェクト拡充。(電気:自家発電設備、太陽光発電設備、空調:ユニット型空調和機、等の整備)		○			○	設備部会
		b6	メーカーオブジェクトおよびジェネリックオブジェクトの置き換え、考え方のBLCJ標準がカバーするアウトプットの明確化		○				建築部会
	c.								
	ワークフローのアウトプット目標に見合った属性情報の整理、それらの項目を検討する方法の整理	c1	→建具表、仕上げ表、確認申請のどの図面、積算に出力する内容の調査および課題の整理				○		連携部会
		c2	BLCJパラメータとBIMソフトが元々有しているパラメータとの重複など				○		建築部会
		c3	BLCJパラメータを入力するプロパティグループ、データの型、初期値のルールなどを定義				○		建築部会
	(BLCJ標準の利用場面を明示する。またパラメータの共通化と実装の仕方を検討)	c4	BLCJパラメータと建築BIM推進会議ワークフローの各ステージとの対応を検討				○		建築部会
		c5	上記の検討結果を「（仮称）オブジェクト属性シート」に整理 → BLCJ標準ver2.0の一部か				○		建築部会
	d.								
	上記の見直された標準を活用するためのデータ類等の検討（ベンダーやサードパーティも含めたBIMの活用に関する構想の取りまとめ）	d1	共有パラメータの活用を関係部会や団体に例示するためのデータ（サンプルモデル、テンプレート、2019年度 Revitファミリの改善など）作成					○	建築部会
		d2	BLCJ仕様Ver1で設定した電気機器・属性情報の再整備（PRISM意見反映）、並びにVer1に含まれない(弱電等)属性情報の整備。確認申請に係る機器・部材の整備。維持管理FM等の属性情報の追加整備。（設2）	→維持管理FMの定義、考え方を調査整理			○		連携部会
	e.								
	ジェネリックオブジェクトの充足度、属性情報の過不足、円滑な連携に必要なソフトウェアの調査と建築確認申請・維持管理、コミショニング項目に関する属性情報の調査と整理（防火ダンパー等）	e1	ジェネリックオブジェクトの充足度の検討 →建物用途は事務所として、BIM化の範囲と機器の種類を設定し、その中でどこまで作成したかを整理(建築確認に必要な防火ダンパー等はオブジェクトに含めるかの整理が必要。)	充足度の整理結果 →ユースケース	△	○	○		設備部会
		e2	属性情報の過不足の検討 →設計、施工、コミショニング、引渡し(維持管理まで拡大すると確定が困難では、資産管理は含むのか等)で必要な情報、建築確認で必要な情報が属性情報として備わっているかの整理 円滑な連携に必要なソフトウェアの調査	属性情報の充足度の整理 →ユースケース	X	○	○	○	設備部会
		e3	→通常用いられるシミュレーションソフト(省エネ、換気、照度、空調設計などに限定して、それらに必要な属性情報が備わっているかの整	現行の属性情報で対応できるソフトウェアの明確化 →ユースケース	X	○	○	○	設備部会
	f.2次元図面とBIM	f1	2D図面とBIMとの使い分の検討					○	建築部会
2.デジタル化時代における建築確認、仕様情報、引渡し・維持管理情報との連携									
	a.建築確認との連携	a1	確認申請情報とBLCJ標準ver1.0の属性情報の比較	比較表		○	○		建築部会、設備部会
		a2	図記号の統一化検討（部会3にて検討）	統一図記号と属性情報		○	○		建築部会、設備部会
		b1	仕様書の章節項等の付番ルールの改善提案(前年度課題)	課題の対応	○				連携部会
		b2	仕様書の記述に判断が含まれる場合の改善対応(同上)	修文意見	○				
	b.仕様情報との連携	b3	データ形式が1:N、N:1、N:Nにある箇所の整理(同上)	修文意見またはシステム対応	○				
		b4	NBS CHORUSシステムの検討	検討結果	○				
		b5	材料・機器等の選択の合理化の検討	一部の事例どまり	△				連携部会
		c1	特記仕様書との連携の検討・特記箇所の整理		○				
		c2	特記仕様書との連携の検討・特記のタイプの整理		○				
		c3	特記仕様書との連携の検討・		○				
	c.								
	特記仕様書・施工管理要領との連携の検討	c4	「特記する」の場合のフェールセーフ対応の検討		○				連携部会
		c5	施工管理要領との連携の検討(2020年度はモデルケース)		○				
			業務量の把握と今年度範囲の実施		○				
		e1	分類コードとの連携の検討(分類コードの種類と比較)	部会4の結果を活用	×				連携部会
		e2	部位別コード等の事例を収集・比較、仮コードの設定		○				
	e.分類コードとの連携・活用	e3	材料・機器コード(Uniclass2015,OmuniClass,CI-NETコードなど)の比較・検討	e1に同じ	×				
		e4	部位別コード、材料・機器コード等による設計-積算-施工-引渡の情報連携の可能性の検討(部位別→工種別変換を含む)		○				連携部会
	f.引渡し、維持管理との連携	f1	COBieと公共プロジェクトでの引渡機器台帳などの比較	COBieと公共の引渡台帳の比	○				連携部会
		f2	公共と民間(NTT、郵政)との引渡台帳等の比較	公共と民間の引渡台帳の比較	○				
[社会実装に向けて]									
	1.標準・オブジェクト等の実務での利用可能性の検討								
	a.								
	ユースケース作成、モデル建物での検証	a1	ユースケースの検討	ユースケース	○	○	○		各部会
		a2	モデル建物での検討(官庁営繕部等のモデル事業)の整理	検証結果（データ整備）	○	○	○		各部会
		a3	上記による属性・オブジェクトの修正・整備	オブジェクト修正・一部追加作	○	○	○		各部会
	2.技術開発動向を踏まえたBIMライブラリと配信方法の検討								
	a.								
	配信方法の多様化	a1	配信方法の多様化による前年度作成要件書の見直し		○				在り方部会 (他部会の協力を得て)
		a2	BIMと仕様情報・特記仕様等の連携のシステムの要求条件整理	要件書が2本	○			a1と合わせて500万	
	3.2を踏まえたビジネスモデルの検討								
	a.								
	ビジネスモデルの検討	a1	既存ライブラリの比較検討	比較表	○				在り方部会
		a2	国り認める標準がビジネスとなるかの検討	評価ビジネスの事例との比較	○				
		a3	オブジェクト標準ver2.0、配信方法の多様化、建築確認・仕様情報との連携、標準認証を含む新たなビジネスモデルの提案	ビジネスモデル	○				
		a4	上記に対するベンダー、メーカー、ユーザー等の意見把握	トップランナーのメリットを含む	○				

検討
検討・整理
確定

※この項目は外部委託で作業を協力してもらう

※この項目は外部委託で作業を協力してもらう